



Mazaru

まざりまじわりつながる

Mazaruは、地域の人とまちが繋がり、

まざりあい一つになることで、

北海道士別市の未来を創りたい。

わたしたちが手を引き、

誰かの「居場所」を見つけるきっかけになりたい。

そんな想いから生まれました。

Interview

地域おこし協力隊 インタビュー



士別市移住定住交流促進協議会



荒又 拓美さん

「根本にあるのは、自分の周りの人たちの幸せ。」

現在27歳（2025年現在）

2024年度から教育分野での起業を目指し、地域おこし協力隊として活動中。目指すのは、勉強を教えるだけの学習塾ではなく、選択肢を広げ、子どもたちが自ら選び取る力を育む“探求型”の学習塾。

士別市出身のUターン型で協力隊になった荒又さんは、中学卒業後に函館の全寮制高校へ進学。大学は小樽で過ごすも、人生に迷いを感じ中退。札幌で模索を続けていた時、士別に帰省した際に市役所職員の紹介で、ゲストハウス&カフェバー「エストアール」を営む先輩・石川さんと出会う。

札幌に住所を置きながら、エストアールの仕事を手伝っていた頃、起業型の協力隊募集を知る。かつては「士別を出るのが当たり前」と思っていたが、石川さんをはじめとする地元プレイヤーたちとの出会いが、「士別にも選択肢はある」と考えを変えるきっかけに。「その選択肢を子どもの中から知っていれば、人生の幅はきっと広がる」。そんな思いから教育分野での起業を志した。

現在は、士別翔雲高校で1年生の探求学習の授業をコーディネートするほか、士別南小中の地域コーディネーターや、公民館主催の子ども議会の主担当、「まちゼミ」事務局としても活躍中。さらに、教育分野にとどまらず、「北海道移住ドラフト会議」の運営リーダーとしても地域を盛り上げている。

今後は、こうした活動を継続しながら、探求型学習塾の本格的な立ち上げに取り組む予定だ。「関わる人が幸せになってほしい」と語るそのまなざしには、教育にかける熱い想いと未来への希望がにじむ。



浦崎 伍央さん

「士別とシェアハウスって似てるんだよね」

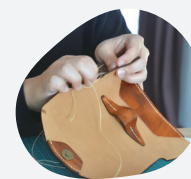
現在25歳（2025年現在）

2025年3月までは東京都新宿区でシェアハウスを運営していた浦崎さん。

「士別もシェアハウスも、話したことがすぐ他の人に伝わる」。士別の住民性について聞いたときにそんな言葉を口にしていった。確かに、どちらも小さなコミュニティ。だからこそ丁寧なコミュニケーションが必要で、その関係性を楽しめなければ、そもそも暮らしていくのは難しいと語る。

士別との出会いは2024年夏、市内の若者2人（木村インダストリーの木村氏と協力隊の荒又氏）が企画した、35歳以下の若者約60人を集めたバーベキューイベントへの参加がきっかけ。新宿からふらりと参加したのは、士別の友人が自身のシェアハウスに住んでいた縁から。「なんか面白そうなことやってんな、行ってみるか」という軽やかな気持ちで、やがて協力隊として士別に根を下ろす未来に繋がった。

将来的に事業を起こしたいという思いと、士別の人の温かさに惹かれ、2025年5月、地域おこし協力隊として着任。レザークラフト事業をスタートさせた。士別には羊をはじめ、牛や鹿など多くの動物がいる。その皮を無駄なく活用し、地元産の素材を使った製品づくりに挑戦中だ。すでにいくつかの作品が完成しており、年内の商品化を目指して日々クラフトに向き合っている。



士別で育った動物たちの皮を、士別で加工し、士別から発信する。そんなストーリーに込められた想いが、今、少しずつ形になりはじめている。





吉田 賢人さん

「大学時代の研究から士別へ、目指すはプロ球団」

現在24歳（2025現在）

旭川出身の吉田さんは、2024年に協力隊として士別へ移住。

現在は朝日地区の志BETSU HDで、独立リーグの野球チーム「KAMIKAWA士別サムライブレイズ」のマネジメント全般を一手に担っている。大学時代の研究対象がこのチームで、インターンを通じて士別と出会い、協力隊に応募。

仕事は試合会場の手配、物販管理、選手の給与処理、仕事の斡旋など多岐にわたる。引き継ぎも前例もない中、手探りでできることを増やしてきた。

自然に囲まれた朝日地区での生活は不便さも含めて心地よく、集中して働ける環境だという。将来はプロ野球のマネジメント職を目指し、日々経験を重ねている。



齋藤 友貴さん

「夫婦二人でつくる、士別の暮らし」

現在31歳（2025年現在）

奥さんと二人で士別へ移住してきた齋藤友貴さんは、上士別地区に宅地と納屋を借り、羊たちと猫たちと共に暮らしている。

元々は道内の家畜用飼料メーカーに勤務し、大学時代からのパートナーと共に、動物や農業に関わる道を歩んできた。

「動物と一緒に暮らしたい」という奥さんの思いもあり、2022年8月、羊の飼養支援制度が整った士別へ、協力隊として着任。全国的にも珍しい“羊特化”の制度に惹かれての決断だった。最初は羊中心の計画だったが、「安定して暮らすには農業との組み合わせが必要」と考え、ハイブリッド型を選択。

1年目は「羊と雲の丘」で研修、2年目からは北町の農家・大崎さんのもとで農業研修に従事しつつ、自宅納屋で羊の飼育を開始。宅地と納屋は士別で出会った知人から紹介され、築60年の家は夫婦でDIYしながら住んでいる。暮らしの様子はYouTubeでも発信中だ。

納屋には現在18頭の羊。将来的には常時50頭を目指す。農業研修を行う斎藤さんに代わり、羊の世話は奥さんが担い、ECサイト「齋藤ひつじ牧場」で原毛の販売も始めている。

任期終了後は納屋と宅地を譲り受け、畑を借りて農業と両立しながら羊の飼育を続ける予定。羊毛・食肉・種付けと、多角的に資源を活かす構想だ。協力隊から本格就農を目指す“羊の開拓者”として、斎藤さんに寄せられる期待は大きい。夫婦二人三脚で暮らしを紡ぎながら、着実に夢へと歩んでいる。



富安 玄さん

「自立した就農に向け、とにかく準備を怠らない」

現在40歳（2025年現在）

士別で協力隊2年目を迎えた富安さんは、羊と農業のハイブリッド型での新規就農を目指している。

元IT系から畜産業界に転身し、牧場勤務を経て腰を痛めて休職。その間に大学へ通い、多数の資格を取得した努力家だ。羊特化の協力隊募集を知り、全国的にも珍しい士別での活動を決意。

1年目は「ベコラファーム」で羊の飼養、2年目は「農業組合法人あさひ」で農業を学ぶ。効率的でコンパクトなスタイルを貫き、資格取得にも余念がない。

一方で朝日地区の自然や人の温かさに惹かれ、「今あるものの魅力を発信すれば人は集まる」と話す。外から来た目線を活かし、地域と共に未来を築いている。



中藪 大和さん

「自分にできるのは農業しかないな、士別でそれができたらなって」

京都出身の中藪さん（協力隊3年目）は、7月で任期満了になる。（2025年現在）

現在は多寄地区で研修を重ね、新規就農を目指している。大学では農業とは無縁の分野を学んでいたが、アメリカでの農業研修や士別出身の奥さんとの出会いを経て、協力隊として2022年に士別へ。研修を受けつつ、自らトマト栽培も開始。2年目には「やまとのとまと」としてジュースを商品化し、大きな反響を得た。

「1年目から自分で動くことが大事」と語る中藪さん。任期満了後もトマトと畑作での新規就農を目指して動いていくという。持ち前の身軽さとそれでいて鋭い現実的な行動力で切り開いていく。



水とみどり

広大な牧草地

羊と雲

満天の星空

Shibetsu City

士別市

四季折々の美しい景色と
地域の温かさを感じられる
特別な場所。

さらに詳しくは
こちら



士別市移住定住
ポータルサイト



士別市移住定住交流促進協議会

名称：Mazaru

設立：2024年10月7日

連絡先：Mazaru事務局

☎ 050-6882-2097

✉ mazaru.shibetsu.ijuteiju@gmail.com

所在地：北海道士別市東6条4丁目1番地